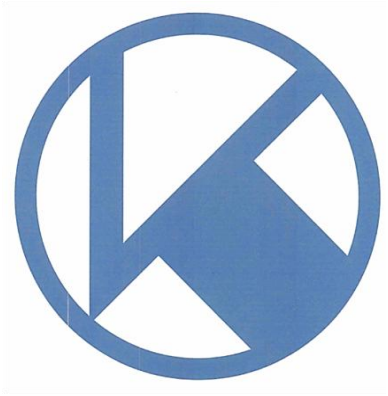
2026年度

郡山健康科学専門学校
講義概要



こども未来学科
2年生

学校法人こおりやま東都学園

こども未来学科　2025年度生　履修一覧

1年		
教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
外国語、体育以外の科目	憲法	
	情報処理	
	ポケット・ゼミ	
外国語	英語	
体育	健康・スポーツ理論	
	健康・スポーツ実技	
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	●
	教育原理	●
	子ども家庭福祉	●
	社会福祉	●
	社会的養護Ⅰ	●
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	●
	子どもの理解と援助	
	子どもの保健	●
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	
	保育内容総論Ⅰ	
	健康指導法	
	人間関係指導法	
	環境指導法	
	子どもの生活と遊び（表現と運動）	
	子どもの生活と遊び（音楽とリズム）Ⅰ	●
	子どもの生活と遊び（感性と創造）	●
	子どもの生活と遊び（言葉と児童文化財）	●
	乳児保育Ⅰ	
	乳児保育Ⅱ	
保育実習	保育実習指導Ⅰ	●

2年		
教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
保育の本質・目的に関する科目	子ども家庭支援論	
	保育者論	
	医療保育総論	
	多職種連携総論	
保育の対象の理解に関する科目	子ども家庭支援の心理学	
	子どもの食と栄養	●
	発達障害児の理解と対応	
保育の内容・方法に関する科目	言葉指導法	
	表現指導法	
	子どもの健康と安全	
	障害児保育	
	社会的養護Ⅱ	●
	子育て支援	
	居住環境学	
	感覚統合入門	
	在宅保育	
	保育内容演習Ⅰ	
	子どもの生活と遊び（音楽とリズム）Ⅱ	●
	保育内容演習Ⅱ	
	入門臨床美術	
保育実習	保育実習Ⅰ	
	保育実習指導Ⅱ	
	保育実習Ⅱ	
	保育実習指導Ⅲ	
	保育実習Ⅲ	
総合演習	保育実践演習	

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
子ども家庭支援論 ※実務経験のある教員の授業科目	渡邉　佐江子 保育園（保育士）16年勤務	渡邉

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

現在の日本社会における子育て家庭に対する支援の意義と必要性について理解し、保育士による子ども家庭支援の意義と基本について学ぶ。また、その体制と展開、現状と課題についての理解を深める。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①子ども家庭支援の意義と役割について理解する。	考え抜く力
②保育士による子ども家庭支援の意義と基本について理解する。	生活援助技術
③子育て家庭に対する支援の体制について理解する。	相談支援技術
④多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。	
⑤子ども家庭福祉に関する現状と課題について説明できる。	

【履修上の注意】　毎回の授業の予習課題の励行と事前提出

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	オリエンテーション	この科目を学ぶ必要性と授業の進め方、履修上の注意点について理解する。	個人
2	子ども家庭支援の意義と必要性	子ども・家庭をめぐる環境変化と現状、支援の意義について理解する。	個人
3	子ども家庭支援の目的と機能	子ども家庭支援の目的と範囲、機能と専門性について学ぶ。	個人
4	保育の専門性を生かした子ども家庭支援	保育所・認定こども園の特性、保育の専門性を生かした家庭支援について学ぶ。	個人
5	子どもの育ちの喜びの共有	保護者と協働するための子どもの育ちの喜びの共有について理解する。	個人
6	子育てを自ら実践する力の向上	保護者の「子育てを実践する力」を支持するための方法について学ぶ。	個人
7	保育士に求められる基本的態度	家庭支援において保育士に求められる基本的態度について理解する。	個人
8	家庭の状況に応じた支援	保護者の就労状況や子ども、保護者自身の問題等状況に応じた支援について学ぶ。	個人
9	子育て家庭に対する支援の展開Ⅰ	子育て家庭の福祉を図るための社会資源について学ぶ。	個人
10	子育て家庭に対する支援の展開Ⅱ	子育て支援施策・次世代育成支援施策について学ぶ。	個人
11	多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅰ	子ども家庭支援の内容と対象について理解する。	個人
12	多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅱ	保育所等を利用する子育て家庭への支援について学ぶ。	個人
13	多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅲ	地域の子育て家庭への支援について学ぶ。	個人
14	多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅳ	要保護児童およびその家庭に対する支援について学ぶ。	個人
15	子ども家庭支援に関する現状と課題	制度・行政上、相談体制、施設、社会の意識等について理解する。	個人

期末試験	筆記試験（レポート）	評価方法	筆記試験 60%	授業への貢献 20%
			受講態度 20%	

【教科書】	最新保育士養成講座第10巻「子ども家庭福祉支援」（全社協）
【参考書】	保育所保育指針（チャイルド本社）

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	毎回の授業の予習課題の励行と事前提出		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
保育者論 ※実務経験のある教員の授業科目	渡邉　佐江子 保育園(保育士)16年勤務	渡邉

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	後期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

保育者の役割や保育士の責務を理解する。さらに、専門職として子どもを見る柔軟な視点を養い、生涯成長する保育者であると認識することを目的として、その向上のための理解を深める。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①保育者の役割と倫理について理解する。	前に踏み出す力
②保育士の制度的な位置づけを理解する。	考え抜く力
③保育士の専門性について考察し、理解する。	チームで働く力
④保育者の連携・協働について理解する。	発達援助技術
⑤保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。	生活援助技術

【履修上の注意】実習を振り返りながら、グループワークや意見発表に積極的に参加すること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	講義概要と学習目標、成績評価の方法と履修上の注意点について理解する。	個人
2	保育者の仕事と役割	保育者の仕事について確認し、それぞれの保育現場での仕事と役割について理解する。	個人
3	保育者の制度的位置づけ	各保育現場の保育者の位置づけと資格・要件・欠格事由等について理解する。	個人
4	保育者の倫理と子どもの権利擁護	保育者の倫理を再確認し、保育場面における子どもの権利擁護とは何かについて事例を通して考える。	グループ
5	保育者になるための学び	保育を実践する者への意識転換と保育者になるための道筋について理解する。	個人
6	保育者に求められる資質	保育者に求められる資質、期待される役割について理解し、学生時代に学ぶべきことを考える。	個人
7	学びあう専門家としての連携と協働①	職員間の連携・協働について考え、理解を深める。	グループ
8	学びあう専門家としての連携と協働②	専門職間および専門機関、関係機関との連携・協働について理解する。	グループ
9	保育者の資質向上とキャリア	資質向上のための研修、キャリア形成、チームとしての保育とリーダーシップについて理解する。	個人
10	子どもの育ちの危機と子育て支援	子どもを取り巻く生活環境から子どもの育ちと保護者の子育てを考え、保育者としての役割を理解する。	個人
11	現代社会の変化と保育者の仕事や課題	映像から現代の子育ての現状を知り、保育者の役割について考える。	個人
12	これからの保育者に期待されるもの	おおよそ5項目について取り上げて具体的に理解する。	個人
13	資料に見る保育者の姿	社会の変化と保育者の役割、働く保育者の実態から学び、その専門性とライフコースについて考える。	グループ
14	保育者の育ち① ～保育者になる人へのメッセージ～	テキストのコラムからグループ討議、意見交換を行い、保育者の育ちへの理解を深める。	グループ
15	保育者の育ち② ～保育者になる人へのメッセージ～	保護者の立場から保育者に求める役割の特別講義を聞き、感じたことをレポートにまとめる。	グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 60%	授業への貢献 10%
			受講態度 10%	レポート 20%

【教科書】	今に生きる保育者論第4版(みらい)
【参考書】	保育所保育指針(チャイルド本社)　保育所保育指針解説(フレーベル館)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】授業を振り返ってレポート課題に取り組むこと。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
子ども家庭支援の心理学	佐藤　明宏 一般	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

乳幼児期だけでなく生涯発達について概観し、子どもと関わる大人の発達と課題について学ぶ。さらにそれぞれが課題を抱えて構成されている家庭・家族の理解を深め、現状と課題について学ぶ。さらに、こうした中での子どもの精神保健とその課題についても学び、理解を深める。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①生涯発達について学び、関わる保育者自身や保護者の理解を深める。 ②家族・家庭の理解を深める。 ③子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 ④子どもの精神保健とその課題について理解する。	考え抜く力 発達援助技術 生活援助技術

【履修上の注意】毎回の授業の予習と課題の提出を怠らないこと。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	シラバスとテキストを概観し、講義内容、進め方、評価方法について理解する。	個人
2	生涯発達Ⅰ　乳幼児期から学童前期	大きく乳児期、幼児期、学童前期について学び、理解する。	個人
3	生涯発達Ⅱ　学童後期から青年期	保護者や家庭のかかえる支援のニーズへの気づきと多面的な理解に関心を持つ。	個人
4	生涯発達Ⅲ　成人期・老年期	大きく成人期と老年期に分けて学び、理解する。	個人
5	生涯発達Ⅳ　保育者としての生涯の発達	保育者としての発達の特徴について学び、発達課題とその達成について理解する。	個人
6	家族・家庭の理解Ⅰ 家族家庭の意義と対応	家族・家庭の定義、歴史、発達について学び、理解を深める。	個人
7	家族・家庭の理解Ⅱ 親子関係・家族関係の理解	親子関係・家族関係と子どもの発達への影響と対応について学ぶ。	グループ
8	家族・家庭の理解Ⅱ 子育ての経験と親としての育ち	親の発達について学び、その発達を支えるための保育者について考える。	グループ
9	子育て家庭に関する現状と課題Ⅰ 子育てを取り巻く社会環境	周産期と子育て期の社会的状況について学び、理解を深める。	個人
10	子育て家庭に関する現状と課題Ⅱ ライフコースと仕事・子育て	ライフコースの定義、変遷、仕事と子育ての位置付けについて学ぶ。	個人
11	子育て家庭に関する現状と課題Ⅲ 多様な家庭とその理解	現代の家庭の変容と多様な家庭の形態について学ぶ。	個人
12	子育て家庭に関する現状と課題Ⅳ 特別な配慮を要する家庭	特別な配慮の必要性を理解し、家庭・家族への支援を学ぶ。	グループ
13	子どもの精神保健とその課題Ⅰ 子どもの生活・生育環境とその影響	家庭、地域、社会状況の変化とその影響について学び、理解する。	グループ
14	子どもの精神保健とその課題Ⅱ 子どもの心の健康に関わる問題	発達、ことば、摂食の問題を中心に考える。	グループ
15	子どもの精神保健とその課題Ⅲ	排泄、睡眠、習癖の問題を中心に考える。	グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 60%	レポート 20%
			受講態度 20%	

【教科書】	最新保育士養成講座第6巻「子どもの発達理解と援助」(全社協)
【参考書】	保育所保育指針解説(フレーベル館)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】教科書・参考書を用いての予習復習。レポート課題の提出。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
子どもの食と栄養(1/2)	辻　匡子 一般	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	通年	30(60)	演習	2

【授業の概要・目的】

健康な生活を支えるための食生活の基本的知識を学び、子どもの成長段階に合わせた食生活について理解する。また、食物アレルギーや障害などから、特別な配慮が必要な子どもへの食育指導も含め、環境設定や、地域社会、文化との関わりを通して、食への理解を深めることを目的とする。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①健康と食生活ならびに子どもの成長と発達について理解し、説明できる。 ②栄養の種類と働きが理解できる。 ③消化吸収が説明できる。 ④食事摂取基準について理解できる。 ⑤食育基本法を理解して、子どもの食教育の進め方ができる。	発達援助技術 生活援助技術 相談支援技術

【履修上の注意】教科書を忘れずに持参しましょう。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	心身の健康と食生活	健康とは何かを考える。	個人
2	心身の健康と食生活	心身の健康増進と食生活について理解する。	個人
3	食生活の現状と課題	栄養調査から見た食品、栄養素等摂取状況について知る。	個人
4	食生活の現状と課題	栄養調査から見た食品、栄養素等摂取状況について知る。	個人
5	食生活の現状と課題	生活リズムと課題について理解する。	個人
6	栄養に関する基本的知識	栄養素の種類と機能についての知識を身につける。	個人
7	栄養に関する基本的知識	栄養素の種類と機能についての知識を身につける。	個人
8	栄養に関する基本的知識	職員間の連携と協働を理解する。	個人
9	栄養に関する基本的知識	栄養素の種類と機能についての知識を身につける。	個人
10	栄養に関する基本的知識	栄養素の種類と機能についての知識を身につける。	個人
11	食事摂取基準について	算定概要と必要量について理解する。	個人
12	食事摂取基準について	算定概要と必要量について理解する。	個人
13	食事摂取基準について	算定概要と必要量について理解する。	個人
14	食事摂取基準について	算定概要と必要量について理解する。	個人
15	献立作成と調理の基本	基本の作成方法を理解する。	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　90% 授業への貢献　10%

	発育期の子どもの食生活と栄養(学建書院) ビジュアル食品成分表(大修館書店)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】授業で提示された内容を調べておく。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
子どもの食と栄養(2/2)	辻　匡子 一般	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	通年	30(60)	演習	2

【授業の概要・目的】

健康な生活を支えるための食生活の基本知識を学び、子どもの成長段階に合わせた食生活について理解する。また、食物アレルギーや障害などから、特別な配慮が必要な子どもへの食育指導も含め、環境設定や、地域社会、文化との関わりを通して、食への理解を深めることを目的とする。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①前期で学んだ栄養学の基礎的知識をもとに、子どもの年齢や発育・発達過程における食生活との関連性が理解できる。 ②子どもの発育・発達に応じた調理形態の変化や味付けの基本、調理の技術を実践し、習得できる。	発達援助技術 生活援助技術 相談支援技術

【履修上の注意】教科書を忘れずに持参しましょう。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	乳幼児期の心身の特徴と食生活	乳幼児期の食行動について理解する。	グループ
2	乳幼児期の心身の特徴と食生活	乳汁栄養について理解する。	グループ
3	乳幼児期の心身の特徴と食生活	調理実習を通して人工栄養について理解する。	グループ
4	離乳の意義と実施	離乳の必要性についての知識を身につける。	グループ
5	離乳の意義と実施	調理実習を通して離乳食についての知識を身につける。 (離乳食の実習①)	グループ
6	離乳の意義と実施	離乳食作りの留意について理解する。	グループ
7	離乳の意義と実施	調理実習を通して離乳食についての知識を身につける。 (離乳食の実習②)	グループ
8	幼児期の心身の発達と食生活	幼児期の成長と発達について理解する。	グループ
9	幼児期の心身の発達と食生活	調理実習を通して幼児期の食事についての知識を身につける。 (幼児期の食事の実習①)	グループ
10	幼児期の心身の発達と食生活	幼児期の間食について理解する。	グループ
11	幼児期の心身の発達と食生活	調理実習を通して幼児期の間食についての知識を身つける。 (幼児期の食事の実習②)	グループ
12	学童期の心身の発達と食生活	学童期の身体・精神的発達について理解する。	グループ
13	学童期の心身の発達と食生活	学童期の食生活と学校給食について理解する。	グループ
14	学童期の心身の発達と食生活	子ども虐待の予防と対応を理解する。	グループ
15	まとめ	講義のまとめを行う。	グループ

期末試験	実技試験	評価方法	実技試験 50% レポート 50%

【教科書】	発育期の子どもの食生活と栄養(学建書院) ビジュアル食品成分表(大修館書店)
【参考書】	こどもの心と体の成長・発達に良い食事(金芳堂) 印刷物配布

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】実習した内容・試食の感想などをノートにまとめて記載する。

【本講義に関しての質問先】担当教員　【質問方法】教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
言葉指導法 ※実務経験のある教員の授業科目	鈴木　恵夏 保育園(保育士)5年勤務	鈴木

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

子どもが経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養うための技術を身に付ける。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
① 領域「言葉」のねらい、内容について理解し、説明することができる。	発達援助技術
② 言葉を育てる遊びを構想することができる。	生活援助技術
③ 環境による保育と子どもの言葉の育ちの関係について理解する。	環境構成技術
④ 言葉の発達の基本的な道筋を理解する。	遊びの展開技術
⑤ 保育教材を作り、実演を通して実践力を身に付ける。	コミュニケーション技術

【履修上の注意】授業で使用するものを事前にお知らせしますので、忘れ物がないように気を付けてください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション 保育内容「言葉」	授業内容、目的、授業の進め方について理解する。 保育内容「言葉」の意義について理解する。	個人
2	領域「言葉」の「ねらい」および「内容」 (乳児保育)	乳児保育に関わる「ねらい」および「内容」について理解を深める。	グループ
3	領域「言葉」の「ねらい」および「内容」 (1歳以上3歳未満児)	1歳以上3歳未満児の保育に関わる「ねらい」および「内容」について理解を深める。	グループ
4	領域「言葉」の「ねらい」および「内容」 (3歳以上児)	3歳以上児に関わる「ねらい」および「内容」について理解を深める。	グループ
5	子どもの言葉と環境	子どもの言葉が育つ環境や話しことば、読み・書き言葉と環境について理解する。	グループ
6	保育者の関わり (0歳児～2歳児)	6か月未満、6か月～1歳3か月未満、1歳3か月～2歳未満、2歳児の言葉と保育者の関わりについて理解する。	個人
7	保育者の関わり (3歳児～6歳児)	3歳児～6歳児の言葉と保育者の関わりについて理解する。	個人
8	言葉での関わりに配慮が必要な子ども	言葉の発達の課題について理解し、保育者の関わりや保護者、専門機関との連携について学ぶ。	個人
9	保育者の言葉	自分自身の言葉を振り返り、言葉の発達を支援する保育者の言葉について理解を深める。	個人
10	言葉を豊かに育む活動(1)	言葉遊びやわらべうたなど、子どもと楽しむ言葉遊びや伝承遊びの実践をする。	グループ
11	言葉を豊かに育む活動(2)	身近な素材を使用し、日常的なお話しや物語、なぞなぞなど、広いテーマを楽しむことができるパペットの製作に取り組む。	グループ
12	お話し会 プログラムの作成	言葉を楽しむお話し会のプログラムを検討し、実践に向けた準備を行なう。	グループ
13	お話し会 プログラムの作成・教材製作	お話し会のプログラム作成や、言葉を楽しむ保育教材の製作を行なう。	グループ
14	お話し会 模擬保育の実践	お話し会のプログラムをグループごとに実演し、評価し合いながら、実施内容の検討を行なう。	グループ
15	お話し会 実践と振り返り	学内でのお話し会を実施し、実践力を身に付ける。 また、その振り返りを行なう。	グループ

期末試験	評価方法		
実技試験	実技試験	40%	課題の達成度 30%
	受講態度	30%	

【教科書】	保育者をめざす人の保育内容「言葉」(みらい) 保育所保育指針(チャイルド本社)
【参考書】	保育所保育指針解説(フレーベル館)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】保育所保育指針の「言葉」のねらい、内容、内容の取扱いを覚えましょう。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
表現指導法	青木　一則 一般	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

養護と教育にかかわる保育の内容を総合的に理解しつつ、子どもの発達を主に「表現」の領域の観点から捉え、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする発達の援助について具体的に学ぶ。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①保育における造形活動の意義について理解し、実践プログラムを作成する事ができる。 ②保育における造形活動にふさわしい環境の構成を行うことができる。 ③保育における表現場面で言葉がけを中心とした適切な援助について構築できる。 ④保育の質的向上を目指した実践の省察と再計画化を行う姿勢を構築できる。	前に踏み出す力 考え抜く力 コミュニケーション技術

【履修上の注意】受講人数等のやむをえない事情により、シラバスの内容を一部修正する可能性があります。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	ガイダンス	講義の進め方の説明と講義「保育内容の中の表現とは」保育における造形表現の意義と保育者の役割を理解する。	個人
2	講義　領域＜表現＞の理解について1	三法令における領域＜表現＞について理解する。	個人
3	講義　領域＜表現＞の理解について2	保育における造形表現に関する理解を深める。	個人
4	描く活動(描画材)について考える	描画の発達段階について知り、幼児の描画活動を追体験する。	グループ
5	つくる活動(ねんど等)について考える	小麦粉粘土体験と感覚遊びの展開についてグループワークを行う。	グループ
6	対話型鑑賞と言葉がけ	活動に関わる評価の方法を知る。	グループ
7	えがく活動(絵の具)について考える	教材の活用と環境構成について学ぶ。＜絵の具遊び＞	グループ
8	つくる活動(工作)について考える	工夫活動を行い創意工夫について考える。＜絵本作り＞	個人
9	講義　0．1歳児の遊び＋ワーク1	乳児の造形活動を観察し子どもの姿を理解する。	個人
10	講義　2歳児の遊び＋ワーク2	3歳未満児の活動を観察し、活動の構造する。	個人
11	講義　3歳以上児の遊び	3歳以上児の観察から表現に関わる心情を読み取る。	グループ
12	模擬保育の準備①	プログラムの試作、実施内容の検討	グループ
13	模擬保育の準備②	実施内容の確認、グルーピングロールプレイの計画	グループ
14	模擬保育実践	実施と振り返り	グループ
15	授業の振り返り	授業の振り返りと保育実践への見通しを持つ。	グループ

期末試験	レポート提出	評価方法	課題の達成度　70%	受講態度　30%

【教科書】	講義内で必要なコピーを配布します。
【参考書】	保育所保育指針解説書(フレーベル館)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】ロールプレイングではグループによる事前打ち合わせ、参考作品製作、プレゼンのリハーサル、反省会など予習復習すること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
子どもの生活と遊び(音楽とリズム)Ⅱ	熊田　桂子 一般	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

子どもの音楽表現活動を豊かに展開するために必要な基本的知識と技術を習得する。また。音楽とリズムⅠと同様に、音楽基礎理論、声楽、鍵盤楽器の基礎的な技能を習得する。さらに、保育に関わる歌を使った遊びの展開について学ぶ。

【学習目標(到達目標)】

①「音楽とリズムⅠ」に引き続き、音楽を構成する要素の基礎知識を身につける。
②季節の生活にかかわる歌やわらべ歌を覚え、歌えるようになる。
③様々な子どもの歌の簡単な伴奏を弾けるようになる。
④簡単な伴奏に合わせて、歌を歌えるようになる。

【受講して得られる力】

遊びの展開技術

【履修上の注意】実技の練習をできるだけ毎日するように努めてください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	授業の内容、目的、授業の進め方について理解する。音楽とリズムⅠの復習。	個人
2	4月のうた①	楽譜の読み方の復習。リズム読み。4月のうたを歌う。子どもの曲の簡単な伴奏を練習する。	個人
3	4月のうた②	リズム読み。音程の度数について学ぶ。4月のうたを歌う。リズムを打ちながら子どものうたを歌う。	個人
4	5月のうた①	2, 3, 6, 7度音程について学ぶ。5月のうたを歌う。新しい子どもの曲をピアノで練習する。	個人
5	5月のうた②	1, 4, 5, 8音程について学ぶ。5月のうたを歌う。新しい子どもの曲をピアノで練習する。	個人
6	6月のうた①	音程についての練習問題を解きながら、理解を深める。6月のうたを歌う。子どもの歌をピアノで弾けるように仕上げる。	個人
7	6月のうた②	音階の仕組みについて理解する。6月のうたを歌う。新しい曲をピアノで練習する。	個人
8	7月のうた①	音階と調性について理解する。7月のうたを歌う。新しい曲をピアノで練習する。	個人
9	7月のうた②	7月のうたを歌う。音程と和音の仕組みについて理解する。コード弾きをできるようにする。ピアノで弾き歌いの練習をする。	個人
10	8月のうた①	8月のうたを歌う。ピアノで弾き歌いの課題に取り組む。	個人
11	8月のうた②	8月のうたを歌う。ピアノで弾き歌いの課題に取り組む。	個人
12	9月のうた①	9月のうたを歌う。実技発表の曲を練習する。	個人
13	9月のうた②	9月のうたを歌う。実技発表の曲を練習する。	個人
14	課題練習	実技発表に向けて、課題曲・自由曲を練習する。	個人
15	課題練習	実技発表に向けて、課題曲・自由曲を練習する。	個人

期末試験		評価方法				
	筆記試験		受講態度	10%	筆記試験	40%
	実技(ピアノ)試験		小テスト	10%	実技試験	40%

【教科書】	保育者になるためのピアノ教本　子どもの歌でいつのまにか上達する(エイデル研究所) 幼稚園教諭・保育士養成課程　幼児のための音楽教育(教育芸術社)
【参考書】	いろいろな伴奏で弾ける選曲　100(チャイルド本社)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】ピアノの練習を毎日少しでもすること。楽典のテキスト・ワークの授業で行った内容を進めておくこと。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	メール連絡	kumachan@y2.dion.ne.jp

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
子どもの健康と安全	星　亜矢子 一般	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、衛生管理・危機管理・事故防止及び安全対策・感染症対策について理解し、子どもの体調不良、発達や状態に即した適切な対応について具体的に理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解を深める。	発達援助技術
②関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策・感染症対策につて具体的に理解する。	生活援助技術
③子どもの体調不良等に対する適切な対応について具体的に理解し説明できる。	環境構成技術
④子どもの発達や状態に即した適切な対応について、具体的に理解し説明できる。	相談支援技術
	コミュニケーション技術

【履修上の注意】履修したことを振り返りながら、次回の講義内容を通読してくること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助	子どもの健康と保育の環境について知る。	個人
2	保健的観点をふまえた保育環境及び援助	個別対応と集団全体の健康及び安全の管理について理解する。	個人
3	保育における健康および安全の管理	手洗い演習を通して施設内の衛生管理・職員の衛生管理についての知識を身につける。	グループ
4	保育における健康および安全の管理	嘔吐物の処理方法演習①を通して食中毒の予防と発生時の対応についての知識を身につける。	グループ
5	保育における健康および安全の管理	嘔吐物の処理方法演習②を通して食中毒の予防と発生時の対応についての知識を身につける。	グループ
6	保育における健康および安全の管理	事故防止および安全対策について理解する。	個人
7	保育における健康および安全の管理	危機管理、災害への備えについて理解する。	個人
8	子どもの体調不良等に対する適切な対応	体調不良が発生した場合の対応について理解する。	個人
9	子どもの体調不良等に対する適切な対応	緊急を要する状況への対処方法について理解する。	個人
10	子どもの体調不良等に対する適切な対応	応急手当の方法を理解する。	個人
11	感染症対策	感染症の集団発生の予防、感染症発生時と罹患後の対応、疾病の支援体制について理解する。	個人
12	保育における保健的対応	3歳児未満への対応、個別的な配慮を要する子どもへの対応について理解する。	個人
13	保育における保健的対応	障害のある子どもへの対応について理解する。	個人
14	健康および安全管理の実施体制	職員間の連携・協働と組織的取組み、保健活動の計画及び評価、地域との連携について理解する。	個人
15	まとめ	前期学習のまとめを行う。	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	課題の達成度　60% 受講態度　40%

【教科書】	子どもの健康と安全(学建書院) 子どもの保健演習ノート　改定第3版(診断と治療社)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】現在、マスメディア等で子どもの健康についてどのようなことが話題になっているか関心を示す。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
障害児保育(1/2) ※実務経験のある教員の授業科目	小坂　徹 障害児入所施設(指導指導員)11年	小坂

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	通年	30(60)	演習	2

【授業の概要・目的】

障害児保育の理念や歴史的変遷について学び、障害児保育についての理解を深める。また、各種障害についての知識と理解を深め、障害児の援助方法や環境構成について学ぶ。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①「障害」について説明できる。 ②各種障害について説明できる。 ③障害児の援助方法や環境構成について説明できる。	前に踏み出す力 考え抜く力 発達援助技術 コミュニケーション技術

【履修上の注意】予習課題の励行と事前提出

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	授業内容と進め方、評価方法、履修上の注意点等について理解し、また、「障害」についての基本的理解を持つ。	個人
2	障害児保育を支える理念Ⅰ	講義:①障害があるとは？②障害がある子どもの保育とは？ について理解する。	個人
3	障害児保育を支える理念Ⅱ	演習問題に対するグループ討議と発表により理解を深める。	グループ
4	障害児保育の基本Ⅰ	講義:発達の見方と発達の評価、障害児保育の対象と保育の場について学ぶ。	個人
5	障害児保育の基本Ⅱ	演習問題に対するグループ討議と発表により理解を深める。	グループ
6	知的障害の理解と支援Ⅰ	講義:知的発達に遅れのある子どもについて、考え方や特徴、支援の方法などについて学ぶ。	個人
7	知的障害児の理解と支援Ⅱ	演習問題に対するグループ討議と発表により知的障害の理解と支援について理解を深める。	グループ
8	肢体不自由、聴覚障害、視覚障害の理解と支援Ⅰ	講義:肢体不自由、聴覚障害、視覚障害がある子どもの理解と支援について学ぶ。	個人
9	肢体不自由児、聴覚障害児、視覚障害児の理解と支援Ⅱ	演習問題に対するグループ討議と発表により理解を深める。	グループ
10	発達が気になる子の理解と支援Ⅰ	講義:発達が気になる子とは？また、その支援について学び、理解を深める。	個人
11	発達が気になる子の理解と支援Ⅱ	演習問題に対するグループ討議と発表により、発達が気になる子の支援について理解を深める。	グループ
12	発達障害の理解と支援Ⅰ	講義:自閉症、ADHD、LDの理解と支援について学ぶ。	個人
13	発達障害の理解と支援Ⅱ	演習問題に対するグループ討議と発表により発達障害のある子どもの理解と支援について学び、理解を深める。	グループ
14	保育の計画の作成と記録・評価Ⅰ	講義:子どもの理解に基づく計画の作成と記録・評価について具体的に学ぶ。	個人
15	保育の計画の作成と記録・評価Ⅱ	演習問題に対するグループ討議と発表により、より具体的に理解を深める。	グループ

期末試験	評価方法		
なし	課題の達成度	80%	受講態度 10%
	授業への貢献	10%	

【教科書】	障害児保育－子どもとともに成長する保育者を目指して－(萌文書林)
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】毎回の授業の予習と課題の事前提出

【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
障害児保育(2/2) ※実務経験のある教員の授業科目	小坂　徹 障害児入所施設(児童指導員)11年	小坂

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	通年	30(60)	演習	2

【授業の概要・目的】

障害児が他の子どもとの関わりの中で育ちあう保育実践について学び、理解を深める。さらに障害のある子どもの保護者への支援や、保健、医療などの関係機関との連携について学び、理解を深める。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①個々の発達を促す生活や遊びの環境づくりと他者との関わりと育ちあいへの配慮ができる。	発達援助技術
②職員間の連携と協力関係づくりの重要性を説明できる。	生活援助技術
③保護者理解と家庭や関係機関との連携の必要性を説明できる。	環境構成技術
④早期発見と就学に向けての支援の重要性を理解する。	コミュニケーション技術
⑤保健・医療・福祉・教育における現状と課題と展望について理解する。	相談支援技術

【履修上の注意】予習課題の励行と事前提出。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	個々の発達を促す生活や遊びの環境Ⅰ	講義:子ども一人一人の発達を促す生活や遊びの環境づくりについて学ぶ。	個人
2	個々の発達を促す生活や遊びの環境Ⅱ	演習課題についてのグループ討議と発表により理解を深める。	グループ
3	他者との関わりと育ちあいⅠ	講義:保育者の関わりと集団保育における配慮について学ぶ。	個人
4	他者との関わりと育ちあいⅡ	演習問題についてのグループ討議と発表により理解を深める。	グループ
5	職員間の協力関係Ⅰ	講義:いくつかのエピソードを通して職員間の連携、協力、情報共有について学ぶ。	個人
6	職員の協力関係Ⅱ	演習問題についてのグループ討議と発表により理解を深める。	グループ
7	家庭や関係機関との連携Ⅰ	講義:保護者の気持ちを理解した上での連携による支援について学ぶ。	個人
8	家庭や関係機関との連携Ⅱ	演習問題についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。	グループ
9	早期発見と支援Ⅰ	講義:健康診査制度、発達相談と療育資源について学ぶ。	個人
10	早期発見と支援Ⅱ	演習問題についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。	グループ
11	就学に向けての支援Ⅰ	講義:障害のある子どもの就学先と就学に向けた支援について学ぶ。	個人
12	就学に向けての支援Ⅱ	演習問題についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。	グループ
13	保健・医療における現状と課題	講義:障害のある子どもに関わる保健・医療の現状と課題についてついて学ぶ。	個人
14	福祉・教育における現状と課題	講義:障害のある子どもに関わる保健・医療の現状と課題についてついて学ぶ。	個人
15	支援の広がりとつながり	事例を通して支援に関する縦と横のつながりについて学ぶ。	個人

期末試験	原則としてなし。	評価方法	課題の達成度 60% 授業への貢献 20%	受講態度 20%

【教科書】	障害児保育－子どもとともに成長する保育者を目指して－(萌文書林)
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】毎回の授業の予習と課題の提出

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
社会的養護Ⅱ	緑川　浩子 一般	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

社会的養護の具体的内容や方法を学び、ケーススタディ等から保育士としての支援・役割を理解し、具体的な援助方法についても理解することを目的とする。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①社会的養護の歴史的変遷に関する理解を深めることができる。 ②社会的養護に関連する法制度及び実施体制を把握することができる。 ③社会的養護の現状及び課題について理解を深め、自ら考察することができる。	前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力

【履修上の注意】毎回の講義終わりに、次回の講義の内容をアナウンスするので、予習を行ってくること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	子どもの権利擁護	子どもがもつ「権利」とは何か 「子どもの権利擁護」と「社会的養護」の関係を理解する	個人
2	社会的養護のもとで生活する子ども	社会的養護を必要とする「要保護児童」とは 社会的養護のもとで生活している児童の実態を把握する	個人
3	社会的養護における日常生活支援	日常生活支援の内容 日常生活支援での留意点を考察する	個人
4	社会的養護における心理的支援	なぜ子どもたちへ心理的支援が必要なのかを考察する 事例から心理的支援のスキルを学習する	個人
5	社会的養護における自立支援	ケアリーバーの意味と現実を理解する 自立支援の具体的内容を学習する	個人
6	施設養護の生活特性と実際の生活①	乳児院と子どもたちの生活を理解する 乳児院への入所理由と支援上の配慮等を学習する	個人
7	施設養護の生活特性と実際の生活②	児童養護施設と子どもたちの生活を理解する 児童養護施設への入所理由と生活上の配慮等を学習する	個人
8	障害児を対象とした福祉サービス	障害児を対象とした福祉サービスの内容を理解する 「障害児通所支援」と「障害児入所支援」等を学習する	個人
9	家庭養護の生活特性および実際	家庭養護における「里親」と「ファミリーホーム」の理解 事例から家庭養護の必要性を学習する	個人
10	アセスメントと個別支援計画	自立支援計画とは 自立支援計画の策定過程を学習する	個人
11	記録と自己評価	記録を取る意義と記録の役割を理解する 自己評価と第三者評価について学習する	個人
12	社会的養護におけるソーシャルワーク①	ソーシャルワークの「定義」「体系」「プロセス」 相談事例からソーシャルワークの必要性を考察する	個人
13	社会的養護におけるソーシャルワーク②	ソーシャルワークに必要なコミュニケーションスキル 専門性を高めるためのスーパービジョンについて学習する	個人
14	今後の社会的養護の課題	社会的養護の展望 「新しい社会的養育ビジョン」の主な内容を学習する	個人
15	まとめ	講義のまとめを行う	

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献 20% 筆記試験 60%	レポート 20%

【教科書】	新・基本保育シリーズ　18　社会的養護Ⅱ(中央法規)
【参考書】	最新　保育小六法・資料集(ミネルヴァ書房)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習は意識的に取り組みましょう。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
子育て支援 ※実務経験のある教員の授業科目	勝見　恵子 保育園(保育士)18年勤務　　幼稚園(幼稚園教諭)9年勤務	勝見

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	後期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

保育士の行う子育て支援について、保育士と保護者の関係形成方法や保育所が行う支援について理解する。また、様々な場面や対象に即した支援の方法や技術を実践的に習得する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①保育士が行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示などの支援(保護者支援)について、その特性と展開を具体的に理解できる。 ②保育士の行う子育てについて、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解できる。	考え抜く力 チームで働く力 コミュニケーション技術 相談支援技術

【履修上の注意】毎回、資料を配布いたしますのでファイルを準備してください。ファイルは忘れず授業に持ってきてください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	保育士が行う子育て支援の特性1	授業内容や履修上の注意点などを理解する。 子どもの保育とともに行う保護者の支援を理解する。	個人
2	保育士が行う子育て支援の特性2	日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成を理解する。	グループ
3	保育士が行う子育て支援の特性3	保護者や家庭のかかえる支援のニーズへの気づきと多面的な理解に関心を持つ。	グループ
4	保育士が行う子育て支援の展開1	子ども及び保護者の状況・状態の把握を理解する。	グループ
5	保育士が行う子育て支援の展開2	支援の計画と環境の構成を理解する。	グループ
6	保育士の行う子育て支援の展開3	支援の実践・記録・評価・カンファレンスを理解する。	グループ
7	保育士の行う子育て支援の展開4	職員間の連携と協働を理解する。	グループ
8	保育士の行う子育て支援の展開5	社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働を理解する。	グループ
9	保育士が行う子育て支援とその実際1 (内容・方法・技術)	保育所等における支援を理解する。	グループ
10	保育士が行う子育て支援とその実際2 (内容・方法・技術)	地域の子育て家庭に対する支援を理解する。	グループ
11	保育士が行う子育て支援とその実際3 (内容・方法・技術)	障害のある子ども及びその家庭に対する支援を理解する。	グループ
12	保育士が行う子育て支援とその実際4 (内容・方法・技術)	特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援を理解する。	グループ
13	保育士が行う子育て支援とその実際5 (内容・方法・技術)	子ども虐待の予防と対応を理解する。	グループ
14	保育士が行う子育て支援とその実際6 (内容・方法・技術)	要保護児童等の家庭に対する支援を理解する。	グループ
15	保育士が行う子育て支援とその実際7	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解をする。	グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　60% 授業への貢献　20%	課題の達成度　20%

【教科書】	保育所保育指針解説(フレーベル館)
【参考書】	子育て支援(中央法規) 学習の主題に応じて適宜資料を配布する。

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	教科書の一読や課題の予習やノート整理による復習。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
医療保育総論	菊池　信太郎 一般	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	後期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

出生前からの子どもとその母親の状況を知り、親子の全体像を捉える。また、子どもの主な疾患や障害について学び、病児保育や体調不良児童への対応、生活の中での療育活動など医療と保育の連携について理解を深める。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①医療と保育の具体的な連携方法を説明できる。 ②小児領域の主な疾患について説明できる。 ③体調不良児童や障害児の遊びと生活支援を具体的に理解し、実践する。	考え抜く力 チームで働く力 発達援助技術 生活援助技術 相談支援技術

【履修上の注意】開講日が異なることもあるため、開講日に注意すること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	病児病後児保育を知る　菊池	病児病後児保育の実際について理解する。絵本を取り入れた保育と、言葉が豊かになる保育について理解する。	個人
2	子どもを授かる、育てるを知る　菊池		個人
3	食物アレルギーを知る　菊池	食物アレルギーとは、食物アレルギーの主な原因と症状、その対策について理解する。	個人
4	小児を知る～成長発達～　菊池	子どもと大人の違いを理解する。 小児の特性と、医療における小児の分野について理解する。	個人
5	小児の事故と予防を知る　菊池	小児で生じやすい主な事故を理解する。事故の対策と予防について理解する。	個人
6	妊娠から出産までの状況を知る　松本	妊娠の成立から胎児の成長、新生児について理解する。出産から新生児期の育児について体験を通して理解を深める。	個人
7	妊娠中の母親の現状を知る　松本	妊娠生活の苦労や大変さと、夫と家族の協力の必要性を理解する。母親の愛着問題、生育歴など、育児との関係について理解する。	個人
8	小児の主な疾患を知る　菊池	小児の主な慢性疾患の概要と対応について理解する。	個人
9	DVについて知る　松本	DVの種類や被害の影響について正しく理解する。	個人
10	小児に診られる症状を知る　菊地	小児でよく診られる症状や気を付けるべき症状を理解する。いざこざや集団遊びを通して、言葉の育ちを理解する。	個人
11	言語聴覚士の仕事内容を知る　中村	言語聴覚士の仕事内容を理解する。	個人
12	言語発達とコミュニケーションを知る　中村	言葉の発達や言葉に関する障害について理解する。	個人
13	視能訓練士の仕事内容を知る　廣田	視能訓練士の仕事内容を理解する。	個人
14	ビジョントレーニングについて知る　廣田	子どもの視力や目のトレーニングを実際に体験して理解する。	個人
15	摂食嚥下について知る　中村	嚥下の仕組み等、詳しい内容を体験を通して理解する。	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　50%	受講態度　50%

【教科書】	医療保育　ぜひ知っておきたい小児科知識改定4版(診断と治療社)　子どもの保健演習ノート改定3版(診断と治療社) 実践病児保育入門　認定病児スペシャリスト試験　公式テキスト(栄治出版)
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】「子どもの保健」「子どもの健康と安全」で学習したことを振り返りながら復習すること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
多職種連携総論	各学科教員 一般	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	後期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

保育現場における多職種連携、協同の実際を理解し、保育士に関する専門職の専門性と、それらの専門職と協働することによる保育士のアイデンティティの理解を深める。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①他の専門職の仕事内容を説明できる。 ②他の専門職と保育士がどのように協働できるのか自分の考えをまとめて発表できる。 ③専門的技術の一部分を実践することが出来る。	考え抜く力 チームで働く力 発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術

【履修上の注意】開講日が異なることもあるため、開講日に注意すること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	介護福祉士の仕事①	介護福祉士の仕事内容を理解する。	個人
2	介護福祉士の仕事②	介護福祉士の仕事内容を理解する。	グループ
3	柔道整復師の仕事①	乳児・幼児・児童に多い怪我について理解する。	グループ
4	柔道整復師の仕事②	応急処置法を実践し、習得する。	グループ
5	理学療法士の仕事①	理学療法士の仕事内容を理解する。	個人
6	理学療法士の仕事②	ハイリスク新生児に対する理学療法の内容を理解する。	グループ
7	理学療法士の仕事③	NICUの理学療法士の仕事内容を理解する。	グループ
8	理学療法士の仕事④	NICUの保育器の中で行うリハビリを実践し、習得する。	グループ
9	多文化共生保育①	外国人とのチーム連携に必要なことについて学ぶ。	グループ
10	多文化共生保育②	外国人とのチーム連携に必要なことについて学ぶ。	グループ
11	作業療法士の仕事①	作業療法士の仕事内容を理解する。	個人
12	作業療法士の仕事②	作業療法士の仕事内容を理解する。	個人
13	作業療法士の仕事③	作業療法士の仕事内容を理解する。	個人
14	医療型障害児入所施設の多職種連携について①	現場の多職種連携の実際について理解する。	グループ
15	医療型障害児入所施設の多職種連携について②	現場の多職種連携の実際について理解する。	グループ

期末試験	レポート課題	評価方法	受講態度 50%	レポート 50%

【教科書】	授業の中で必要な資料をその都度配布します。
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	医療・保健・障害の分野でこれまでに学習したことを振り返りながら、復習すること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
発達障害児の理解と対応 ※実務経験のある教員の授業科目	小坂　徹 障害児入所施設(児童指導員)11年	小坂

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	後期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

発達障害をもつ子や気になる子の行動の意味を捉え、実際の保育場面での様々なつまずき行動に対する理解を深めながら、実際の工夫についての実践的な手だてを身につける。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①発達障害児や気になる子の行動特徴について理解する。	考え抜く力
②それらの行動の意味を考えることができる。	コミュニケーション技術
③その行動の意味に合わせた対応の工夫を考えることができる。	発達援助技術
④実習体験からそれらの行動の意味や対応を考えることができる。	生活援助技術
	環境構成技術

【履修上の注意】予習課題の励行と事前提出及びグループ討議への積極的参加。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	授業概要の説明と進め方、評価の方法と履修上の注意点について理解する。	個人
2	発達障害の共通認識	「発達障害」についての理解の歴史的変遷について理解し、現時点での共通理解が持てるようになる。	個人
3	発達障害と幼稚園・保育園	保育現場での発達障害への支援と対応のポイントについて学び理解を深める。	個人
4	気になる子どもたちへの理解と対応	①対応の基本について理解する。②回避感情を持たないこと。③保護者に寄り添う支援について考える。	個人
5	支援目標の設定	①Self-esteemを育てること。②基本的生活習慣形成の重要性について考える。	個人
6	効果的な支援方法についてⅠ	①行動療法について理解を深める。②SSTについて理解を深める。	グループ
7	効果的な支援方法についてⅡ	①「ほめる」ということについて具体的に理解する。②「説明できる」ようにする。	グループ
8	効果的な支援方法についてⅢ	①ハンドリングについて学ぶ。②ハイタッチについて学ぶ。	グループ
9	関わり方の原則について	①言葉かけの仕方の基本について学ぶ。②「叱る」ということについて理解する。③会話をつなげていく工夫について学ぶ。	グループ
10	言葉以外の関わり方の工夫	いわゆる「視覚支援」について、具体的に理解を深める。	グループ
11	「困った行動」への対応について	①こだわり行動に対する理解と対応について学ぶ。②暴力的な行動に対する理解と対応について学ぶ。	グループ
12	基本的生活習慣形成の重要性と教え方	①教え方の工夫のポイントについて学ぶ。②「あいさつ7」の重要性について学び、理解を深める。	グループ
13	小学校入学に必要なこと	①小学校入学は人生のゴールではないこと。②発達障害をどう伝えるか。	個人
14	発達障害について願うこと	①「見守り」の有効性と限界。②してはいけないことについての理解について考える。	グループ
15	まとめ	①保育所・幼稚園に望むことについて学び、保育者としての在り方について理解を深める。	グループ

期末試験	原則としてなし。	評価方法	課題の達成度 60%	受講態度 20%
			授業への貢献 20%	

【教科書】	幼稚園・保育園での発達障害の考え方と対応 幼稚園・保育園での発達障害の考え方と対応(役に立つ実践編)
【参考書】	少年写真新聞社

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】各授業前の予習とその課題の事前提出。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
居住環境学	田中　絹代 一般	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	後期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

居住環境の概念を理解し，子どもや高齢者，障害者を含めた全ての人々にとって安全で快適に暮らせる居住環境について学びます。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①子ども，高齢者，障害者にとって居住環境について説明ができる。 ②子ども，高齢者，障害者にとって快適な居住環境とは何かを提案できる。 ③社会的弱者を含めたすべての人々が快適に暮らせる環境づくりを考えることができる。	考え抜く力 チームで働く力 環境構成技術 発達援助技術

【履修上の注意】毎回の授業の予習と課題の事前提出を忘れないように気をつけること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	概論	環境について理解し、自分の理想の居住環境について表現できる。	個人
2	子どもの権利条約にみる居住環境	「子どもの権利条約」にみる住居環境について理解し，説明できる。	個人
3	子どもの行動と環境の関係	子どもの発達と行動，環境との相互関係について理解し、説明できる。	個人
4	子どもを取り巻く居住環境の変化	子どもを取り巻く居住環境の変化について理解し、説明できる。	グループ
5	子育てと居住環境①	子育てに適した環境を①安全性，②健康性，③快適性，④利便性に分けて理解し，説明できる。	個人
6	子育てと居住環境②	子育てに配慮した居住環境(住宅・地域社会)を説明できる。	グループ
7	障害者と高齢者と居住環境①	演習を通して障害者・高齢者の居住環境のニーズや生活との関連について関心を持つ。	グループ
8	障害者と高齢者と居住環境②	障害者・高齢者に配慮した居住環境(住宅・地域社会)を説明できる。	グループ
9	子ども，障がい者．高齢者のための住環境①	「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」について興味を持つ。	グループ
10	子ども，障がい者．高齢者のための住環境②	「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」について理解し，実際の住宅の改築案を考えることができる。	グループ
11	地域コミュニティーと社会的弱者の視点にたった環境つくり①	人間にとっての住宅環境の持つ意味について理解し，「すべての人々のための環境づくり」に関心を持つ。	グループ
12	地域コミュニティーと社会的弱者の視点にたった環境つくり②	人間にとっての住宅環境の持つ意味について理解し，「すべての人々のための環境づくり」を提案できる。	グループ
13	地域コミュニティーと社会的弱者の視点にたった環境つくり③	「全ての人々のための環境づくり」について，子どもが学ぶ活動を提案することができる。	グループ
14	地域コミュニティーと社会的弱者の視点にたった環境つくり④	「全ての人々のための環境づくり」について，子どもが学ぶ活動を振り返ることができる。	グループ
15	まとめ	「社会的弱者の視点にたった環境づくり」経過のまとめと発表を通して，理解を深め，説明することが出来る。	グループ

期末試験		評価方法	課題の達成度　40%	レポート　30%
			受講態度　30%	

【教科書】	なし
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	グループ活動の準備

【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
感覚統合入門	田中　絹代 一般	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

障害のある子どもの療育の一つである感覚統合理論をもとに，子どもの行動特性を理解し，子どもの発達に応じた感覚運動遊びについて学びます。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①感覚統合理論の重要な感覚の種類と機能について説明できる。 ②感覚統合理論に基づいて子どもの発達を促す遊びを立案できる。 ③障害をもった子どもに配慮し，感覚統合理論に基づいたプログラムを安全に実施できる。	前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 発達援助技術

【履修上の注意】実際の遊具を使った演習を通して理解を深めます。動きやすい服装で参加してください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	感覚統合理論①	障害をもつ子どもを対象とした療育の中で「感覚統合」についての位置づけや理論的背景を説明できる。	個人
2	感覚統合理論②	感覚の機能と発達的意義について説明できる。	グループ
3	感覚統合機能の評価①	感覚統合機能の評価が実施できる。	グループ
4	感覚統合機能の評価②	感覚統合機能の評価結果を生活上の行動として理解できる。	グループ
5	触覚系の感覚遊び①	演習を通して触覚系の遊びに興味を持つ。	グループ
6	触覚系の感覚遊び②	グループで触覚系の遊びを振りかえりその発達的意義について説明できる。	個人
7	固有受容系・前庭系の感覚遊び①	演習を通して固有受容系・前庭系の遊びに関心を持つ。	グループ
8	固有受容系・前庭系の感覚遊び②	グループで固有受容系・前庭系の遊びを振りかえりその発達的意義について説明できる。	個人
9	感覚運動遊びの展開	「正常発達」の原則に基づいて感覚運動遊びの段階付けができる。	個人
10	グループ活動の立案と実施①	感覚統合理論をもとにしてグループ活動を立案できる。	グループ
11	グループ活動の立案と実施②	感覚統合理論をもとにしてグループ活動の準備ができる。	グループ
12	グループ活動の立案と実施③	感覚統合理論をもとにしたグループ活動を安全に実施し、記録できる。	グループ
13	グループ活動の振り返り	感覚統合理論をもとにしたグループ活動を振りかえり、発達的意義について理解することができる。	個人
14	グループ活動の発表	グループ活動のまとめを発表することで「感覚統合理論」の理解を深める。	グループ
15	まとめ	子どもの行動を感覚統合理論の視点だけでなく，他の発達学的視点から統合的に理解できる。	個人

期末試験		評価方法	課題の達成度 40%	レポート 30%
			受講態度 30%	

【教科書】	幼児期の感覚統合遊び－保育士と作業療法士のコラボレーション(クリエイツかもがわ)
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	グループ活動の準備		
【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
在宅保育 ※実務経験のある教員の授業科目	田母神　知加子 幼稚園(幼稚園教諭) 2年勤務・ 保育所(保育士)11年勤務	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	後期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

様々な社会的ニーズによって発生してきたベビーシッターの役割を理解する。在宅での保育に必要な技術や安全管理方法を学び、ベビーシッターとして必要とされる専門的な技術を身につける。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①在宅保育の意義や役割を理解する。 ②ベビーシッターとして必要な知識、技術を習得することができる。 ③家庭訪問保育の模擬保育実践を通して、ベビーシッターとしての倫理観を学ぶ。	発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術 コミュニケーション技術 相談支援技術

【履修上の注意】全講義を履修後、試験を実施し、保育士資格取得と同時に認定ベビーシッター資格を取得することができます。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	履修上の注意、授業の内容や進め方について理解する。	個人
2	在宅保育の理解	子ども子育て支援法における保育サービス制度の理解と、その一つである在宅保育の社会的役割について理解する。	個人
3	ベビーシッターの実際①	ベビーシッターの仕事の流れとその内容を理解する。	個人
4	ベビーシッターの実際②	ベビーシッターとしてのマナーや基本姿勢を理解する。	個人
5	ベビーシッター概論①	在宅保育の現状、保育形態の変容と課題について理解する。	個人
6	ベビーシッター概論②	産後ケア、病児・病後児保育、障害児保育サービスにおける実態と留意点を理解する。	個人
7	ベビーシッター概論③	グループ保育、学童保育、夜間・宿泊を伴う保育サービスにおける実態と留意点を理解する。	個人
8	保育マインドと子育て支援	在宅保育における保育の考え方、保育マインドを理解する。 家庭のニーズへの理解とカウンセリングマインドを理解する。	個人
9	在宅保育のリスクマネジメント	在宅保育における事故の発生箇所とその予防策について理解する。	個人
10	子どもの保健	在宅保育における健康管理に必要な知識と技術について理解する。	個人
11	子どもの発達	新生児期から学童期の子どもの発達過程と障害について理解する。	個人
12	子どもの栄養	新生児期から学童期の子どもの栄養と食事の方法、食育について理解する。	個人
13	ベビーシッターの保育技術①	子どもの発達段階や生活環境に応じた日常生活援助や関わり方について理解する。	グループ
14	ベビーシッターの保育技術②	子どもの発達段階や生活環境に応じた遊びの援助や関わり方について理解する。	グループ
15	模擬保育	これまでの学習を活かして、実際に家庭を訪問することを想定してベビーシッターとしての模擬保育を行う。	グループ
期末試験	筆記試験・実技試験	評価方法	筆記試験 50% 実技試験 50%

【教科書】	家庭訪問保育の理論と実際　第3版(中央法規出版)
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】既習してきた内容を用いながら、復習を行ってください。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
入門臨床美術	青木　一則 一般	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	後期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

臨床美術を基に、制作した美術作品を通して、一人一人の参加者にそった働きかけをすることを学び、その人の意欲と潜在能力を引き出す知識と技法を修得することを目的とする。

【学習目標(到達目標)】

①病院や施設、保育園で実践されている臨床美術の基本的な知識と技術を表現できる。
②実際に美術制作を行うことにより、創造性をもってアートを理解することができる。
③ロールプレイングによってコミュニケーションスキルを様々な形で活かすことができるようになる。
④プレゼンテーションスキルを獲得し、様々な場面で活かすことができるようになる。

【受講して得られる力】

チームで働く力
遊びの展開技術
環境構成技術

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	ガイダンス　講義の進め方についての説明	「臨床美術論ガイダンス」講義計画全体やこの講義の位置付け、臨床美術士の資格について理解する。	個人
2	臨床美術の基幹①臨床美術/チーム作り	授業プラン、評価について説明を受け理解し、チーム作りを通して学びの体制を整える。	グループ
3	臨床美術の基幹②臨床美術/基幹	臨床美術の歴史、理念について学び、基本的な画材の使用方法につても学び理解する。	個人
4	臨床美術入門①　アナログ画	概念的な絵にならず自由に絵を描くとはどういうことかを実際に制作を通して学び理解する。	グループ
5	臨床美術入門②　ジェスチャー画	動きを素早く捉える方法、モチーフの捉え方についてクロッキーを通して学び習得する。	グループ
6	臨床美術入門③　量感画	ものを実感するとはどういうことかについて、リンゴをモチーフに制作を通して学び習得する。	個人
7	臨床美術入門④　立体造形カボチャ1	2Dから3Dの制作を通して、新聞と和紙を用いた立体作品の制作方法を学び習得する。	個人
8	臨床美術入門⑤　立体造形カボチャ2	2Dから3Dの制作を通して、新聞と和紙を用いた立体作品の制作方法を学び習得する。	グループ
9	臨床美術入門⑥　修正輪郭画	純粋輪郭画法、修正輪郭画法を実践を通し学び習得する。	個人
10	存在論的人間観	臨床美術の理念となる人間へのまなざしを存在論的人間観を通して学び理解する。	個人
11	コミュニケーションスキル① アートコミュニケーション(非言語)	アートを通したコミュニケーションの可能性について学び、制作と相互学習を通して理解する。	グループ
12	コミュニケーションスキル② アートコミュニケーション(言語)	鑑賞会の実践を通して自己肯定感、自己効力感を高めるコミュニケーションスキルについて学び、習得する。	グループ
13	臨床美術実践の基礎①	アナログ画のアートプログラムについて学び、習得する。	個人
14	臨床美術実践の基礎②	アナログ画のロールプレイを行う。	グループ
15	総括(学びのシェア)	学びのシェア　これまでの総括を行い、意見交換や相互学習を通して学びのシェアを行う。	グループ

期末試験	レポート提出	評価方法	課題の達成度　70%	受講態度　30%

【教科書】	講義内で必要なコピーを配布します。
【参考書】	講義内で必要なコピーを配布します。 臨床美術士養成講座5級取得コーステキスト(芸術造形研究所)、臨床美術のすすめ(日本臨床美術協会)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】ロールプレイングではグループによる事前打ち合わせ、参考作品制作、プレゼンのリハーサル、反省会など予習復習すること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保育内容演習Ⅰ ※実務経験のある教員による科目		1)鈴木　恵夏　　熊田　桂子 1)　保育園(保育士)5年勤務			鈴木
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

領域「表現」の内容を理解したうえで、子どもにとっての音や音楽の意義、身体を使った表現遊び、効果的な指導法、知識などを理解し、表現遊びへ展開できるようにする。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①領域「表現」のねらい及び内容について理解する。 ②子どもの表現力を育てるための活動設定や保育者の役割を考え、具体的な保育を設定した指導案を作成することができる。 ③表現活動を通して友達と関わり観察する力や相談する力が身につく。 ④子どもが主体的に遊ぶことができる安全な環境づくりを学ぶ。	遊びの展開技術 コミュニケーション技術

【履修上の注意】表現活動の実践があるため動きやすい服装で参加してください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	ガイダンス 領域「表現について」①	授業内容、目的、授業の進め方について理解する。 音楽遊びの要素について考える。「表現」を考える。	個人
2	領域「表現について」②	領域「表現」について基本的な考え方を理解する。	個人
3	聴く活動から奏でる活動	環境の中の音を探し、言葉や絵で表してみる。 さらに、イメージした言葉や絵から音で表してみる。	グループ
4	身体表現	音やリズムを感じて、体で表現する。 子どもの歌に合わせて体を動かす。	グループ
5	手作り楽器とわらべうた	身近な材料で楽器を作ってみる。手作り楽器で音を出して、わらべ歌などで遊ぶ。	グループ
6	アンサンブル	リズム楽器による簡単な合奏の作り方を学ぶ。	グループ
7	保育者の役割	表現を育てる保育者の役割を考える。幼児の発達を理解し、音やリズム、音楽遊びを取り入れた指導案の作成をする。	グループ
8	模擬保育	幼児の発達を理解し、音やリズム、音楽遊びを取り入れた指導案による模擬保育の実践と振り返りをする。	グループ
9	身体を使った表現遊び	身体を使った表現遊びの実践を通して、身体表現遊びが十分に楽しめる環境づくりや配慮点について理解する。	グループ
10	素材・廃材を使った表現遊び	身近な素材、廃材を使った表現遊びの実践を通して、子どもたちの発想を大切にしながら遊びの面白さを引き出す技術を身に付ける。	グループ
11	おはなしを楽しむ表現遊び(1)	劇遊びとはどのようなものか、また劇遊びを通じて育まれる力について理解する。	グループ
12	おはなしを楽しむ表現遊び(2)	劇遊びの台本や構成などの演出をグループで話し合い、練習を行なう。	グループ
13	おはなしを楽しむ表現遊び(3)	劇遊びの発表を行なう。また、その振り返りを通して、表現を楽しむことができる環境構成や保育者の援助について理解を深める。	グループ
14	ものを使った表現遊び(1)	ものを使った表現遊びの実践を通して、保育に取り入れる際の保育者の役割や留意点について理解を深める。	グループ
15	ものを使った表現遊び(2)	ものを使った表現遊びの実践を通して、保育に取り入れる際の保育者の役割や留意点について理解を深める。	グループ

期末試験	表現遊びの発表	評価方法	受講態度 50%	発表会の結果 30%
			課題の達成度 20%	

【教科書】	わくわく音遊びでかんたん発表会−手拍子ゲームから器楽合奏まで(鈴木出版)
【参考書】	幼稚園教諭・保育士養成課程　幼児のための音楽教育(教育芸術社) 保育所保育指針(チャイルド本社)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	授業内で出た課題は期限までに取り組んでおきましょう。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
保育内容演習Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目	田母神　知加子 幼稚園(幼稚園教諭) 2年勤務・ 保育所(保育士)11年勤務	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

保育内容のねらい及び内容を理解し、保育所保育指針に基づいた保育実践力を養う。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①5つの領域(健康、人間関係、環境、言葉、表現)を捉えた、総合的な保育を理解する。 ②保育者の役割や子どもの発達を理解した指導計画案の立案ができる。 ③子どもの姿を感じながら、子どもの心によりそう保育実践力を養う。 ④保育の記録の意義と具体的な記入の方法について理解を深める。	遊びの展開技術 前に踏み出す力 コミュニケーション技術 チームで働く力

【履修上の注意】常に生活環境に興味関心を向け、主体的に教材研究を行ってください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション 保育内容演習Ⅱの意義と方法	授業の目的と内容を理解する。	グループ
2	遊びの援助と展開①	「砂場」遊びの援助と展開についてグループワークを通して理解する。	グループ
3	遊びの援助と展開②	「鬼ごっこ」遊びの援助と展開についてグループワークを通して理解する。	グループ
4	遊びの援助と展開③	「ごっこ遊び」の援助と展開についてグループワークを通して理解する。	グループ
5	遊びの援助と展開④	「積み木」遊びの援助と展開についてグループワークを通して理解する。	グループ
6	遊びの援助と展開⑤	「ブロック」遊びの援助と展開についてグループワークを通して理解する。	グループ
7	遊びの援助と展開⑥	「製作」遊びの援助と展開についてグループワークを通して理解する。	グループ
8	遊びの援助と展開⑦	「運動遊び」の援助と展開についてグループワークを通して理解する。	グループ
9	遊びの援助と展開⑧	「ままごと」遊びの援助と展開についてグループワークを通して理解する。	グループ
10	遊びの援助と展開⑨	「自然とのかかわり」の援助と展開についてグループワークを通して理解する。	グループ
11	実習日誌の書き方①	「保育実習Ⅰ」(保育所)の日誌を振り返り「保育実習Ⅱ」の記録の書き方を理解する。	個人
12	実習日誌の書き方②	考察の書き方を理解する。	個人
13	実習日誌の書き方③	考察の書き方を理解する。	個人
14	実習日誌の書き方④	エピソード記録の書き方を理解する。	個人
15	実習日誌の書き方⑤	ドキュメンテーション型日誌の書き方を理解する。	個人

期末試験	課題発表	評価方法	受講態度 40%	課題の達成度 30%
			授業への貢献 30%	

【教科書】	保育所保育指針(チャイルド本社) 保育所保育指針解説(フレーベル館)
【参考書】	フォトランゲージで学ぶ （萌文書林）

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】ボランティア活動を通して子ども理解に繋げる

【本講義に関しての質問先】担当教員　【質問方法】教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
保育実践演習(1/2) ※実務経験のある教員の授業科目	小坂 ・勝見 ・1)田母神 ・矢吹 ・鈴木 1)保育所(保育士)9年勤務・幼稚園(幼稚園教諭)2年勤務	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	後期	30(60)	演習	2

【授業の概要・目的】

保育士養成課程の教育課程全体を通して、保育士として必要な知識、技術、教養、判断力、倫理観等の修得、形成について、自らの学びを振り返り確認するために、グループ討論、ロールプレイング等の授業方法により、その定着を図る。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①保育士の意義や役割、職務内容、子どもに対する責任、倫理、社会性、対人関係能力を理解できる。	前に踏み出す力
②子どもやその家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携について理解できる。	考え抜く力
③保育や子育て家庭に対する支援の展開について説明できる。	チームで働く力
④保育に関する現代的課題の分析に基づく探究について理解できる。	コミュニケーション技術
⑤自己の課題の把握と今後に向けて取り組むべきこと及びその具体的な手段や方法等の明確にできる。	

【履修上の注意】演習課題やグループ討議への積極的参加してください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション 田母神	本科目の目標と計画、担当教員等について理解する。 グループにおける学びあいについて理解する。	個人
2	学級経営について 勝見	学級経営の概要、また学級づくりと担任の役割、様々な問題に対する組織的対応の必要性を理解する。	個人
3	学級経営における保育者の対応について 勝見	学級経営における保育現場での保育者の対応について理解する。	個人
4	事例研究～保育現場での対応～ 勝見	課題のある子どもに対する対応(保護者連携も含め)について理解する。	個人
5	特別支援教育 勝見	特別な支援が必要とする子どもの個別の指導計画と統合保育の課題と展望について理解する。	個人
6	「幼保小連携」への対応と連携 勝見	子どもの生活変化を踏まえた適切な保育の在り方やリスクマネジメントについて理解する。	個人
7	保育設計と模擬保育 勝見	保育指導計画案を作成し、模擬保育をする。	個人
8	保育とは、保育者の仕事とは 田母神	保育者に求められる役割について講義と演習を通して理解する。	グループ
9	保育とは、保育者の仕事とは 田母神	事例についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。	グループ
10	保育実践力を育む保育・実践演習 田母神	講義と事例を通して保育実践力を育む必要性について理解する。	グループ
11	保育実践力を育む保育・実践演習 田母神	講義と事例を通して保育実践力を育む必要性について理解する。	グループ
12	保育の場における保育実践力Ⅰ-1 小坂	保育実践の原理について講義を主として理解を深める。	個人
13	保育の場における保育実践力Ⅰ―2 小坂	演習課題を通して理解を深める。	グループ
14	保育の場における保育実践力Ⅱ―1 田母神	事例についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。	グループ
15	保育の場における保育実践力Ⅱ―2 田母神	演習課題を通して理解を深める。	グループ

期末試験	評価方法		
原則としてなし。	授業への貢献	30%	課題の達成度 40%
	受講態度	30%	

【教科書】	保育・教育実践演習(建帛社)
【参考書】	保育所保育指針(チャイルド本社)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習課題のある場合の達成

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
保育実践演習(2/2) ※実務経験のある教員の授業科目	小坂・勝見・1）田母神・矢吹・鈴木 1）保育所（保育士）9年勤務・幼稚園（幼稚園教諭）2年勤務	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	後期	30(60)	演習	2

【授業の概要・目的】

保育士養成課程における教育課程全体を通して、保育士として必要な知識、技術、教養、判断力、倫理観等の修得について、自らの学びを振り返り確認するために、グループ討議、ロールプレイング等の授業方法により、資質・能力の向上を図る。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①保育士の意義や役割、職務内容、子どもに対する責任、倫理、社会性、対人関係能力を理解できる。	考え抜く力
②子どもやその家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携について理解できる。	前に踏み出す力
③保育や子育て家庭に対する支援の展開について説明できる。	チームで働く力
④保育に関する現代的課題の分析に基づく探究について理解できる。	コミュニケーション技術
⑤自己の課題の把握と今後に向けてとりくむべきこと及びその具体的な手段や方法等を明確にできる。	

【履修上の注意】演習課題やグループ討議への積極的参加してください。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	保育実践力を育む方法と内容 鈴木（恵）	事例研究の方法で各自の事例を記述し、グループで紹介し合う。	グループ
2	保育実践力を育む方法と内容 鈴木（恵）	グループごとに取り上げた事例をグループ討議、発表する。	グループ
3	保育実践力を育む方法と内容 鈴木（恵）	グループごとに取り上げた事例をグループ討議、発表する。	グループ
4	保育実践力を育む方法と内容 ロールプレイング・心理劇　小坂	ロールプレイング・心理劇についての講義と演習。	グループ
5	保育実践力を育む方法と内容 ロールプレイング・心理劇　小坂	演習課題とグループ討議・発表を通して理解を深める。	グループ
6	保育実践力を育む方法と内容 ロールプレイング・心理劇　小坂	事例課題のロールプレイングとグループ討議と発表。	グループ
7	保育実践力を育む方法と内容 プレゼンテーション　鈴木（恵）	クラス便りに関する演習課題とそのグループ討議と発表を通して理解を深める。	グループ
8	保育実践力を育む方法と内容 プレゼンテーション　鈴木（恵）	様々な方法についての演習課題とそのグループ討議と発表を通して理解を深める。	グループ
9	保育実践力を育む方法と内容 プレゼンテーション　鈴木（恵）	VTR視聴を通しての演習課題とそのグループ討議・発表を通して理解を深める。	グループ
10	子どもの思いの理解と保育者の願い 矢吹	事例についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。	グループ
11	子どもの思いの理解と保育者の願い 矢吹	事例1についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。	グループ
12	子どもの思いの理解と保育者の願い 矢吹	事例2についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。	グループ
13	子ども同士のトラブルへの関わり 矢吹	事例3についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。	グループ
14	子ども同士のトラブルへの関わり 矢吹	事例についてのグループ討議と発表を通して理解を深める。	グループ
15	まとめ 田母神	成長し続ける保育士になるために、これからに向けて課題の明確にする。	個人

期末試験	原則としてなし。	評価方法	授業への貢献　30% 受講態度　30%	課題の達成度　40%

【教科書】	保育・教育実践演習(建帛社)
【参考書】	保育所保育指針（チャイルド本社）

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習課題がある場合の達成

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
保育実習Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目	勝見　恵子 保育園（保育士）18年勤務・幼稚園（幼稚園教諭）9年勤務	勝見

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	20(160)	実習	4

【授業の概要・目的】
保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解し、観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。また、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学びながら、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。	発達援助技術
②観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。	生活援助技術
③既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。	チームで働く力
④保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。	考え抜く力
⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。	コミュニケーション技術

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	【保育所における実習の内容】 1.保育所の役割と機能 (1)保育所の生活と一日の流れ		
2	(2)保育所保育指針の理解と保育の展開 2.子ども理解 (1)子どもの観察その記録による理解		
3	(2)子どもの発達過程の理解 (3)子どもへの援助やかかわり 3.保育内容・保育環境		
4	(1)保育の計画に基づく保育内容 (2)子どもの発達過程に応じた保育環境		
5	(3)子どもの健康と安全 4.保育の計画，観察，記録 (1)保育過程と指導計画の理解と活用		
6	(2)記録に基づく省察・自己評価 5.専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1)保育士の業務内容		
7	(2)職員間の役割分担や連携 (3)保育士の役割と職業倫理		
8	【居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容】 1.施設の役割と機能 (1)施設の生活と流れ		
9	(2)施設の役割と機能 2.子ども理解 (1)子どもの観察とその記録		
10	(2)個々の状態に応じた援助とかかわり 3.養護内容・生活環境 (1)計画に基づく活動や援助		
11	(2)子どもの心身の状態に応じた対応 (3)子どもの活動と生活の環境 (4)健康管理，安全対策の理解		
12	4.計画と記録 (1)支援計画の理解と活用 (2)記録に基づく省察・自己評価		
13	5.専門職としての保育士の役割と倫理 (1)保育士の業務内容 (2)職員間の役割分担や連携		
14	(3)保育士の役割と職業倫理		
15			

期末試験		評価方法	課題の達成度　40% 実習評価　60%	

【教科書】	特になし
【参考書】	実習の手引き(福島県保育者養成校連絡会)・保育所保育指針・保育所保育指針解説(厚生労働省)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	担当教員から指示があります。		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	電話連絡

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
保育実習指導Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目	1)田母神　知加子 ・矢吹　ヒロ子・鈴木　恵夏 1)保育所(保育士)9年勤務・幼稚園(幼稚園教諭)2年勤務	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

保育実習による総合的な学びとなるよう、今までの学びを関連させながら保育実践力を習得する。また附属保育園における実践などを通して学び、実習後は実習の総括と自己評価を行い保育に対する課題や認識を明確にする。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①保育実習の意義と目的を理解する。 ②実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえながら、保育実践力を培う。 ③保育の観察・記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して理解を深める。 ④保育士の専門性と職業倫理について理解する。	環境構成技術 遊びの展開技術 発達援助技術 生活援助技術 コミュニケーション技術

【履修上の注意】保育士らしい服装・態度で授業に参加すること。計画的にピアノレッスンや教材作りなど、実習に向けて各自準備すること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	保育実習Ⅱの意義と方法 田母神	「保育実習Ⅰ(保育所)」の自己課題を明確にし「保育実習Ⅱ」の意義と方法を理解する。	個人
2	キッズ東都学園保育園参加実習と振り返り 田母神	学園附属保育園における参加実習を通して保育実践力を身に付ける。	個人
3	保育におけるさまざまな計画(責任) 田母神	総合実習について理解する。	個人
4	子どもの発達、興味・関心をとらえた保育(1) 鈴木	保育実習で見てきた子どもの遊びや生活の様子を振り返り、子どもの姿を具体的に記述する力を身に付ける。	グループ
5	子どもの発達、興味・関心をとらえた保育(2) 鈴木	具体的に記述された子どもの姿を踏まえたねらいの立て方を理解する。	グループ
6	子どもの発達、興味・関心をとらえた保育(3) 鈴木	ねらいが達成できる保育の内容を検討する。	グループ
7	子どもの発達、興味・関心をとらえた保育(4) 鈴木	検討した保育の内容を実践するための指導計画の立案をする。	グループ
8	子どもの発達、興味・関心をとらえた保育(5) 鈴木	作成した指導計画案に基づく模擬保育を行なう。	グループ
9	保育実践力の育成(教材研究)① 矢吹	模擬保育を踏まえ、子どもの姿に応じた教材や援助の工夫について考える。	個人
10	保育実践力の育成(教材研究)② 矢吹	模擬保育の課題を基に指導計画や教材を見直し、より良い保育の構成を検討する。	個人
11	保育実践力の育成(模擬保育)① 矢吹	見直した指導計画及び教材に基づき、改善を意識した模擬保育を実践する。	個人
12	保育実践力の育成(模擬保育)② 矢吹	模擬保育の振り返りを通して自己課題を明確にし、実習に向けた課題を整理する。	個人
13	キッズ東都学園保育園総合実習と振り返り 田母神	学園附属保育園における指導実習を通して保育実践力を身に付ける。	個人
14	実習事前指導 田母神	実習に必要な書類等を準備する。	個人
15	実習事後指導 田母神	実習を通して自己課題を明確化する。	個人

期末試験	評価方法	受講態度 40%	授業への貢献 30%
		課題の達成度 30%	

【教科書】	フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画(萌文書林)　実習の本(萌文書林) 保育所保育指針(チャイルド社)　保育所保育指針解説(フレーベル館)
【参考書】	実習の手引き(福島県保育者養成校連絡会)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	NHKテレビ番組「おかあさんといっしょ」の視聴・保育雑誌の閲覧・シアター製作・ピアノレッスン

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
保育実習Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目	田母神　知加子 保育所(保育士)9年勤務 ・ 幼稚園(幼稚園教諭)2年勤務	田母神

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	後期	10(80)	実習	2

【授業の概要・目的】
今までの学びと、保育実習Ⅰを踏まえ、保育所に役割や機能について具体的な実践を通して理解を深めるとともに、子どもの保育や保護者支援についても総合的に学ぶ。また実際に計画、実践、観察、記録などについて取り組み、保育士としての職業倫理についても実践を通して理解を深める。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。	発達援助技術
②子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。	環境構成技術
③既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。	遊びの展開技術
④保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。	考え抜く力
⑤保育士の業務内容、職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。	チームで働く力
⑥保育士としての自己課題を明確化する。	

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	1.保育所の役割や機能の具体的展開 (1)養護と教育が一体となって行われる保育 (2)保育所の社会的責任と役割		個人
2	2.観察に基づく保育理解 (1)子どもの心身の状態や活動の記録 (2)保育士等の動きや実際の観察 (3)保育所の生活の流れや展開の把握		個人
3	3.子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 (1)環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2)入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 (3)地域社会との連携		個人
4	4.指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 (1)保育過程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価 (2)作成した指導計画に基づく保育実践と評価		個人
5	5.保育士の業務と職業倫理 (1)多様な保育の展開と保育士の業務 (2)多様な保育の展開と保育士の職業倫理		個人
6	6.自己課題の明確化		個人
7			個人
8			個人
9			個人
10			個人
11			個人
12			個人
13			個人
14			個人
15			個人

期末試験		評価方法	課題の達成度 40% 実習評価 60%	

【教科書】	特になし
【参考書】	実習の手引き(福島県保育者養成校連絡会) 保育所保育指針(チャイルド本社)　　保育所保育指針解説(フレーベル館)

担当教員から指示があります。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	電話連絡

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
保育実習指導Ⅲ ※実務経験のある教員の授業科目	1)小坂　徹・勝見　恵子 1)障害児入所施設(児童指導員)11年勤務	小坂

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

保育実習による総合的な学びとなるよう、今までの学びと保育実習Ⅰでの学びを関連させながら、保育実践力を培う。
実習後は、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 ②実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 ③保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 ④実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にする。	発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術 コミュニケーション技術 相談支援技術

【履修上の注意】時間割が変更される場合があるため確認すること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	保育実習Ⅰを踏まえた実習Ⅲの目的と内容を理解し、保育実習Ⅲの実習施設を選ぶ。	個人
2	保育実習Ⅰ(保育所)の振り返りと自己の課題の明確化	実習記録、実習先評価を通して保育所実習と共通する部分の自己の課題を明確にする。	個人
3	施設実習での目標と課題の設定	自らのレポート課題を基に、施設実習の目標と課題及び内容について考える。	個人
4	実習施設種別毎の目標と課題の確認Ⅰ	同種の実習施設毎に各自の目標と課題について、発表し合い確認する。	グループ
5	実習施設種別毎の目標と課題の確認Ⅱ	「福島県保育実習施設」を基に、自らの実習施設について理解を深める。	グループ
6	体験実習の振り返りと施設実習直前指導	放課後デイサービスでの体験学習の振り返りと直前指導。	個人
7	児童期の子どもの理解と配慮Ⅰ	主に学童期の子どもの発達と関わりについて理解を深める。	個人
8	児童期の子どもの理解と配慮Ⅱ	主に青年期の子どもの発達と関わりについて理解を深める。	個人
9	発達障害のある児童の理解と配慮	発達障害のある児童への関わりについて理解を深める。	個人
10	個別支援計画の理解	個別支援計画の意義と目的について理解を深める。	グループ
11	家庭支援と地域との連携の理解	子どもの家族への支援の重要性についての理解を深める。	グループ
12	他職種との連携についての理解	施設における多様な専門職の役割と連携について学ぶ。	グループ
13	実習直前指導	実習に向けての準備課題の最終確認を行う。	個人
14	実習事後指導Ⅰ	実習の総括と自己評価について個別的に助言を受ける。	個人
15	実習事後指導Ⅱ	自己の課題についてグループ討議と発表を行い、明確化する。	グループ

期末試験	評価方法				
原則としてなし。		受講態度	20%	レポート	30%
		課題の達成度	30%	授業への貢献	20%

【教科書】	実習の手引き(福島県保育者養成校連絡会)　福島県保育実習施設(福島県保育者養成校連絡会)
【参考書】	施設実習(北大路書房)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】幼児期以降の子どもの理解を推薦図書や配布物を通して理解を深める。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
保育実習Ⅲ ※実務経験のある教員の授業科目	小坂　徹 知的障害児入所施設(児童指導員)11年勤務	小坂

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
こども未来学科	2	後期	10(80)	実習	2

【授業の概要・目的】
保育所以外の児童福祉施設などの役割や機能について実践を通して理解するとともに、保護者支援や家庭支援のための知識、技術、判断力を、実践を通して総合的に学ぶ。また、保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践と結びつけながら理解することを目的とする。

【学習目標(到達目標)】
①児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解を深める。
②家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援のための知識、技術、判断力を養う。
③保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
④保育士としての自己の課題を明確化する。

【受講して得られる力】
コミュニケーション技術
発達援助技術
遊びの展開技術
生活援助技術

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	1.児童福祉施設(保育所以外)もの役割と機能 2.施設における支援の実態 (1)受容し、共感する態度 (2)個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 (3)個別支援計画の作成と実践 (4)子どもの家族への支援と対応 (5)多様な専門職との連携 3.保育士の多様な業務と職業倫理 4.保育士としての自己課題の明確化		個人
2			個人
3			個人
4			個人
5			個人
6			個人
7			個人
8			個人
9			個人
10			個人
11			個人
12			個人
13			個人
14			個人
15			個人

期末試験		評価方法	課題の達成度　40% 実習評価　60%	

【教科書】	特になし
【参考書】	実習の手引き(福島県保育者養成校連絡会) 保育所保育指針(チャイルド本社)　保育所保育指針解説(フレーベル館)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	担当教員から指示があります。		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	電話連絡